俳句

【小学1年生・2年生】

特　選　**マスクしてみんな一れつ学校へ**

稲枝東小学校2年　**藤野　弥優**

（評）　いま新型コロナウイルスの感染を予防するため、みんなマスクをつけています。マスクは冬の季題として歳時記にものっています。みんなマスクをして話もしないで一列に並んで学校へ行くようすをうまく作品に表現できました。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

特　選　**さくらさきあらたないっぽふみだそう**

亀山小学校1年　**河野　馨**

（評）　長い冬が終わり、桜の季節がやってきました。こもってばかりいないで、新しい一歩をふみだす作者。「あらたないっぽ」とは何でしょうか。
ほかの人には言えない事かもしれないね。心に決めた目標に向かってすすむことを応援しています。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**ひがんばなどこに行ってもさいている**

城東小学校2年　**野間　なつみ**

（評）　秋に、葉っぱがなく茎だけ三、四十センチくらいにのばしてその上にまっ赤な花を咲かせます。田んぼや川のどてなどにあつまって生えていて「曼珠沙華」とも言います。
作者が言うように、どこに行っても咲いています。そしてその赤色が目立ち、炎に包まれているようです。そんな景色を素直に表現したよい句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**こいのぼりそらいっぱいにあがったよ**

平田小学校2年　**東川　美歩**

（評）　さいきんは、こいのぼりを町なかではあまり見かけることはないのですが、町から少し出るとまだまだ見かけることがあります。作者のお家にもこいのぼりがあがった。そのよろこびを「そらいっぱい」と表現することで、大きな空にこいのぼりが気持ちよさそうに泳いでいる場面が目に浮かぶよい句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　うんどうかいリレーいちばんきんめだる

城北小学校1年　近藤　愛華

（評）作者のチームがリレーで一番になったのでしょう。金メダルも輝いています。チームみんながんばったその結果の金メダル。一句からよろこびと、何でもがんばれば良い結果につながるということを感じました。運動会の様子が目に浮かぶよい句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

佳作　どんぐりのおおきさいろいろおもしろい

城北小学校1年　松岡　柚希

佳作　カブトむしつのがながくてちからもち

平田小学校2年　樋口　結心

佳作　ひまわりはたいようみたいきれいだな

平田小学校2年　上野　鉄太

佳作　おかあさんつくってくれたくりごはん

城北小学校1年　勝居　海翔

佳作　りんりんとむしたちのこえたのしいな

城北小学校1年　上田　樹季

入選　ひがんばなまっかにさいたすてきだな
城北小学校1年　鵜飼　詩依

入選　かえりみちどんぐりいっぱいみつけたよ
城北小学校1年　藤垣　志依奈

入選　ゆうやけはきれいなあかでふしぎだな
城北小学校2年　池田　花音

入選　どんぐりでおもちゃづくり楽しいな
城北小学校2年　中村　いのり

入選　はなばたけちょうちょがいっぱいとんでいる
城東小学校2年　北村　実瑚

入選　どんぐりがころころころがるさかみちだ
城北小学校1年　山田　恵梧

入選　秋の空いっぱいかきたいおえかきちょう
若葉小学校2年　土川　湊

入選　どんぐりはいろんなかたちおもしろい
若葉小学校2年　北居　陽太

入選　おとうととバッタおっかけどこまでも
稲枝東小学校1年　有田　芽唯

【小学3年生・4年生】

特　選　**いつの間に読み終えた本夜は長し**

河瀬小学校4年　**嶋津　海人**

（評）「夜は長し」が秋の季語。
「夜長」とか「長き夜」とも言います。「いつの間に」で、夢中になって読み終えた秋の夜長の満足感も伝わる良い作品です。
（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

特　選　**ケンカしてしばらく無言夏の雨**

河瀬小学校4年　**小杉　紗季**

（評）よくある場面ですね。季語の「夏の雨」は明るい。止まない雨はない。季語の使い方がじょうずです。じきになかなおりしたのもそうぞうできます。「けんか」と書いた方が良いでしょう。
（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

特　選　**母の名の明とはちがう秋もすき**

佐和山小学校3年　**橋本　尚哉**

（評）作者の大好きなお母さんの名前は明子（あき）さんでしょうか。同じ発音の「秋」ですから「秋」っていいなあ、すきだなあと思うのですね。
「秋も」の「も」の一文字でとても良い作品になりました。
（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

特　選　**お月見を今日は一人で少しだけ**

城北小学校4年　**若林　颯士**

（評）ひとりでおるすばんをしている夜のことでしょうか。十五夜の月を一人でながめたよというのです。「少しだけ」でさびしい気持ちも伝わります。
（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

特　選　**まんげつがほうせきみたいにかがやくよ**

鳥居本小学校3年　**八木　環奈**

（評）十五夜の月をじっとながめていると澄んで美しくかがやいてみえます。それを見て「ほうせきみたい」と感動しました。だれかにもおしえてあげたい気持ちもわかります。「かがやくよ」の「よ」の一文字があるからです。
（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**紅葉がりたんけんしたいぐらいきれいだな**

河瀬小学校４年　矢田　温子

（評）「紅葉がり」は秋の季語で、紅葉の美しいところをたずねて歩くことをいいます。この作品は「たんけんしたいぐらいきれい」と自分の言葉で感動をあらわしてすばらしい。俳句は十七音というきまりですから「だな」はなくてもよいでしょう。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**そうじして家がきれいで冬の空**

河瀬小学校４年　山本　愛奈

（評）年末の大そうじを家族といっしょにしたのでしょう。きれいになった家と、晴れわたりすみきった冬空が見えるようです。季語「冬の空」を使ってじょうずな作品です。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**ミサンガをきれいな色で夏の風**

河瀬小学校４年　小林　ちはる

（評）「色で」のあとに「作った」が省略されています。ミサンガとはねがいごとをかなえるのに手や足首にまきつけるアクセサリーのこと。夏の日焼けした健康な手足にはきれいな色がにあいます。季語「夏の風」がよかったです。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**ディズニーはコロナで行けず秋の風**

河瀬小学校４年　髙橋　唯永

（評）世界中の人々が新型コロナウイルスというこわい病気に悩まされています。作者が春休みか夏休みに計画していたディズニーランド行きも中止となりました。今はもう秋風が吹くころとなり、なんとなくさびしいのです。季語「秋の風」と使ったことがさびしさがよく感じられよかったです。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**ゆかたきて友と見せ合いおどりだす**

稲枝東小学校３年　小西　樺乃

（評）夏まつりに出かけるのでしょう。ゆかたを着たときのうれしい気持ちが素直に書かれています。「ゆかた」が夏の季語です。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**はるになりたくさんのめが目をさます**

城西小学校３年　本田　彩葉

（評）「たくさんのめ」は「たくさんの芽」と書くとわかりやすいですね。春の草の芽や木の芽を表現しました。冬のねむりから目をさましたようだという作品です。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**目をつむりキンモクセイのにおいかぐ**

城北小学校3年　**木原　寧音**

（評）きんもくせいは十月はじめごろ、だいだい色の小花をさかせとてもよいにおいのする木です。「目をつむる」ことによりそのにおいに心を集中させました。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**もずのこえキンキンひびきうるさいな**

稲枝北小学校4年　**柿添　真輝**

（評）「もず」が秋の季語です。もずという鳥の様子をよくとらえています。家のまわりにも来てキーッ、キーッと鳴くからめいわくがられてもいます。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**すずむしがいえのベンチでなきすごす**

金城小学校3年　**児玉　樹**

（評）家の外のベンチの方に耳をかたむけているのでしょう。「なきすごす」からすずむしのなき声がやまない様子もわかります。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**しおむすびぼくのこうぶつ秋の味**

高宮小学校3年　**堀田　悠介**

（評）「秋の味」というから、この「しおむすび」はおかあさんが新米をたいてにぎってくれたことがそうぞうできます。おいしそう。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

佳作　さつまいもむしぱんにしておいしいな
河瀬小学校3年　中辻　竜之介

佳作　なんのこえこのむしのこえどこからだ
金城小学校3年　三原　花奏

佳作　きのこってなんでそんなにかわいいの
金城小学校3年　奥野　絢菜

佳作　カマキリはうでがギザギザかっこいい
金城小学校3年　村上　悠喜

佳作　川に落ち色づくカエデ流れ行く
金城小学校4年　升谷　悠誠

佳作　せり川の桜の落葉水面に
金城小学校4年　武田　亘平

佳作　どんぐりのおそろいぼうしかわいいね
金城小学校4年　北方　歌莉奈

佳作　ししまいだ頭かまれて元気な年
金城小学校4年　北川　海依斗

佳作　十二月みんなで協力もちつきだ
金城小学校4年　古木　鈴華

佳作　七五三とてもかわいいしゃしんだよ
金城小学校4年　加藤　圭悟

佳作　まん月にうさぎが一羽うつったよ
金城小学校4年　西口　玲央

佳作　あきのそら夕やけぐもがきれいだな
城北小学校3年　小山　祐奈

佳作　スポーツの秋はやっぱり野球だな
城北小学校4年　村田　涼世

佳作　あついなつコロナとマスクやっかいだ
城西小学校3年　北川　瑚蘭

佳作　もみじの葉じめんにちってきれいだな
城西小学校3年　増田　優

佳作　おかあさんさつまいもがねよんでるよ
城西小学校3年　村田　謙昌

佳作　もみじの葉風でふわりとはばたくよ
城西小学校3年　毛利　友哉

佳作　やきいもをやいてるときもいいにおい
城西小学校3年　松林　悠人

佳作　コスモスはゆらゆらゆらと風とあそぶ
城西小学校3年　桟敷　瑛生

佳作　赤とんぼえだにとまって一息つく
城東小学校4年　宮川　孝太

佳作　こうようでいろづくせり川きれいだな
城東小学校4年　西澤　早紀

佳作　どんぐりをふまないようにゆっくりと
平田小学校3年　髙橋　蒼

佳作　七五三かわいくなってうれしいな
河瀬小学校4年　岩村　凛

佳作　サッカーでミドルシュートや天高し
河瀬小学校4年　北川　徠夢

佳作　わたしはねおとうとすきだ春の風
河瀬小学校4年　若松　里香

入選　落としものちゃんと届けた秋の空
河瀬小学校４年　田中　玲央

入選　新米のどんぶりごはんおいしいな
旭森小学校３年　千葉　遥斗

入選　ともだちとあきのはっぱをあつめたよ
平田小学校３年　田中　大地

入選　なつのそらチャーシューメンを食べました
河瀬小学校４年　河嶋　迅

入選　春休みいっぱい遊ぶ青い空
河瀬小学校４年　小林　怜未

入選　夏祭りアイスがとけた手をなめる
河瀬小学校４年　酒野　快人

入選　お稲荷さんあかいとりいとひがんばな
平田小学校３年　村岸　澄子

入選　さくらさきいちねんせいがやってきた
稲枝東小学校３年　岡崎　結花

入選　ゆきのやまどこからみてもきれいだな
稲枝東小学校３年　藤野　きの

入選　さくらのきとりのおやこがあそんでる
稲枝東小学校３年　脇阪　瑠那

【小学5年生・6年生】

特　選　**秋刀魚焼くけむりがおどるいいにおい**

金城小学校5年　澤　愛莉

（評）「秋刀魚」は秋の季語です。
近頃は、ＩＨグリルで魚を焼くことが多く、あまり煙の見ない中、「けむりがおどる」の描写が上手。ガスコンロかも知れませんが、昔ながらの七輪の炭火で焼いている様な広がりを持たせるよい句です。

（彦根文芸協会　松本　トシ子）

特　選　**流れ星空に向かってねがいごと**

城西小学校5年　成宮　麻咲

（評）「流れ星」は秋の季語です。
星が流れている間に、願い事を三回唱えれば願いが叶うと聞いて子どもの頃に、願いを言おうとしたが、星はすぐに消えてしまいました。
しかし、作者は「空に向かって」ねがいごとと言っています。気持ちにゆとりが生まれ嬉しい句になりました。

（彦根文芸協会　松本　トシ子）

特　選　**あめんぼが水面でおさんぽゆうゆうと**

平田小学校5年　益子　朋也

（評）「あめんぼ」は夏の季語です。
「あめんぼ」または「あめんぼう」は水に浮かぶ「くも」の様な虫。六本の足で水の表面張力により身軽に水面を移動します。
水面でおさんぽと見たまま、思ったことを素直に表現できました。

（彦根文芸協会　松本　トシ子）

特　選　**運動会大地にひびく大せいえん**

城陽小学校5年　ボーランド佳乃

（評）「運動会」は秋の季語です。
競技する子に声援を送る子、汗をかき、声をからし、どちらも一生懸命で熱が入りみんなの気持ちが一つになり「大地にひびく大せいえん」となる。よい句になりました。

（彦根文芸協会　松本　トシ子）

特　選　**こたつだすねこにうばわれはいれない**

平田小学校5年　境口　世梨花

（評）「こたつ」は冬の季語です。
寒くなりこたつを出して、暖を取ろうと行ってみると飼い猫が先に入っていて、自分の入る場所がなかった。その時、寒がりの猫を押しのけて入ることはせず、猫にゆずる優しい作者の気持ちが伺うことのできるよい句です。

（彦根文芸協会　松本　トシ子）

準特選　**おいしいなみんなで食べるくりごはん**

平田小学校5年　井上　日和

（評）「栗ごはん」は秋の季語です。
ふだんの食事でも家族そろって食べるとおいしいですが、今日は栗ごはん。それもみんなで食べると特別においしい。旬の味を手間をかけて炊いてくれたお母さんへの感謝も素直に表現されています。
（彦根文芸協会　松本　トシ子）

準特選　**いちょうの葉ぼくのあたまに落ちてきた**

金城小学校5年　正木　珀優

（評）いちょうの黄葉が降っている。作者の頭にも落ちてきた。季語は「いちょう散る」で秋です。
ひらひらと散る葉が頭に当たっても、痛がっているのではなく、むしろ楽しんでいる様子が伝わってきます。
これからも楽しむ気持ちを大事にしてください。
（彦根文芸協会　松本　トシ子）

準特選　**ひがん花炎のように咲きほこる**

城西小学校6年　西畑　穂美

（評）「ひがん花」は秋の季語です。
秋のひがんの頃になると不思議な程赤く咲き広がります。群れて咲くのを見ると燃えるように見える様子を「炎のように」と表現したところが良いと思いました。
（彦根文芸協会　松本　トシ子）

準特選　**運動会今年はなくて残念だ**

城北小学校5年　岡本　蘭

（評）「運動会」は秋の季語です。
新型コロナウイルスがまんえんし、終息の兆しもなく運動会は中止されました。運動会でがんばろうと思っていた気持ちが「残念だ」でよくわかります。
一日も早いコロナの終息を願い平穏な日常の生活にと祈ります。
（彦根文芸協会　松本　トシ子）

準特選　**夕ぐれをゆうゆうと飛ぶあきあかね**

金城小学校5年　福井　紗智

（評）「あきあかね」は「赤とんぼ」のことで、秋の季語です。
夕暮れになり、どこからか集まって来たあきあかねが群れて飛んでいます。「ゆうゆうととぶ」と上手に表現できました。
（彦根文芸協会　松本　トシ子）

準特選　**しずんでく秋の夕やけきれいだな**

城北小学校5年　山本　映祐

（評）夕日が沈む前に、夕やけにそまる景色が美しいその一時期をとらえていて良いと思います。「しずんでいく」ことを表わす「秋入日」という季語があります。
場景が具体的でわかりやすくなりますよ。ぜひ使ってみてください。
（彦根文芸協会　松本　トシ子）

準特選　**コスモスだ風にふかれておどってる**

城西小学校5年　小笹　結愛

（評）「コスモス」は秋の季語です。広いコスモス畑でしょうか。最初に目にした物を「コスモスだ」と言って、その様子を後に知らせるのも一つの方法です、それを「おどってる」と表現したことで、喜びとおどろきが生まれました。

（彦根文芸協会　松本　トシ子）

準特選　**星月夜星の光りに見とれてる**

金城小学校5年　小森　愛心

（評）「星月夜」が秋の季語です。

晴れて澄んだ空にたくさんの星が出ているのを見て、作者は「見とれる」と表現しました。

「何と美しい星空なんでしょう」という気持ちがよく伝わる句になりました。

（彦根文芸協会　松本　トシ子）

準特選　**秋の日の赤や黄色にそまる山**

鳥居本小学校5年　押谷　栞花

（評）赤黄色の紅葉が、日のひかりを浴びて山全体がそまっている。「秋の日の」「そまる山」がよい発見につながりました。俳句は発見が大切です。

（彦根文芸協会　松本　トシ子）

佳作　**秋がくる自然の中をランニング**

金城小学校5年　田中　僚

佳作　**ハラハラといちょうもみじがまいおりる**

金城小学校5年　嶋佐　梨愛

佳作　**どんぐりがいっぱい落ちるこうえんだ**

金城小学校5年　矢橋　涼斗

佳作　**ゆうひがねまっかなとんぼてらしてる**

金城小学校5年　尾本　陽万莉

佳作　**みずうみがまっ赤にそまる夕やけで**

城北小学校6年　西田　菜央

佳作　**運動会1位目指してがんばるよ**

城北小学校6年　塚田　真生

佳作　かぜにのりとんぼ飛びかうあきのそら
城北小学校6年　田中　瑞姫

佳作　銀杏だ歩いていたら足元に
金城小学校5年　辻　琥白

佳作　大好きななしがとどいて丸かじり
城西小学校6年　吉冨　来夢

佳作　土の下つながる兄弟さつまいも
城東小学校5年　平井　未菜実

佳作　風ふいてひらりと舞ったイチョウの葉
城東小学校5年　蛭子野　凛子

佳作　ゆうだちでじめんがぬれてあまぐさい
城東小学校6年　中村　暁

佳作　秋の空夕日がすごく澄んでいる
城東小学校6年　神谷　恭伍

佳作　たなばたのかざりをつくるかわいいな
旭森小学校5年　上田　向日葵

佳作　まっしろだあたりいちめんゆきいっぱい
平田小学校5年　中神　由莉

佳作　どんぐりをとりにいったらくりもある
城陽小学校5年　小川　世梨

入選　秋の夜虫のなき声ひびいてく
金城小学校5年　横沢　美空

入選　くりごはんみているだけでおいしそう
金城小学校5年　林　悠人

入選　かきの木を足でけったら実が落ちた
金城小学校5年　冨田　翔生

入選　赤トンボ夕日の空で飛び回る
金城小学校5年　山田　一輝

入選　あきまつりみこしをかつぐなかまたち
稲枝北小学校5年　中川　峻

入選　ゆうやけがそらをピンクにそめている
城北小学校5年　北村　郁人

入選　どんぐりだちいさいぼうしかわいいな
城北小学校5年　野中　結來

入選　彦根梨甘さばつぐんおいしいな
城北小学校6年　萩原　悠喜

入選　あきかぜはせすじをすっとすぎていく
城北小学校6年　北川　龍柾

入選　夕焼けがとてもきれいな秋の海
城北小学校6年　山本　治

入選　虫の声みんなで集まり音楽会
城西小学校5年　中村　颯

入選　森のおく秋の虫達ミュージカル
城西小学校5年　門池　菜々美

入選　きれいだな山へ見に行くこうようを
城西小学校6年　西村　魁

入選　もみじがね地面一面まっかっか
城西小学校6年　鈴木　悠悟

入選　トゲトゲのよろいをつけたクリを見る
城西小学校6年　押谷　悠希

入選　むしのこえはっぱのしたでえんそうかい
城東小学校6年　髙橋　美夢

入選　きれいだなもみじ色どる山の中
平田小学校5年　砂川　凜

入選　秋の山色とりどりできれいだな
平田小学校5年　押谷　悠希

入選　虫の音を聞いてすごした日よう日
城陽小学校5年　寺嶌　斗彪

入選　秋風でゆれるすすきはわたしの背
城南小学校5年　藤田　夏漣

入選　もみじをねようちえんじがひろってる
城南小学校5年　北川　風汰

入選　お月見はおばあちゃんと見れないな
佐和山小学校5年　角　優里奈

入選　お月見だきょりをとってるお星様
佐和山小学校5年　若林　楼佳

入選　月明りいつもの道が光ってる
佐和山小学校5年　森本　悠介

【中学生】

特　選　**入道雲山の奥から町覗く**

南中学校3年　山田　奏波

（評）だれもがよく見かける光景ですが、一句にまとめるというのは大変なことです。うまくまとめましたね。素直な一句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

特　選　**木の幹にしがみついてるかぶとむし**

南中学校1年　林　唯翔

（評）夜が明けるのを待って里山に行った記憶があります。懐中電灯に照らし出された「かぶとむし」を捕ろうとしてもなかなか木から離れない。その一瞬の出来事を捉えた一句。よく細かいところに気がつきましたね。素晴らしい一句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

特　選　**彦根城桜吹雪が宙を舞う**

西中学校3年　安田　仁一朗

（評）彦根城の桜は美しい。桜吹雪が宙を舞うなんてうまく言いましたね。「宙を舞う」がこの一句をより美しく仕上げることになったと思います。景色が目に映るようです。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**秋の空小説家への筆はこぶ**

南中学校3年　森　瑞希

（評）難しい一句ですね。作者は小説家を目指しているのかもしれません。そのために日々の努力を重ねているとも考えられます。季題に「秋の空」を使ったことで、どこまでも晴れ渡り高く見えるが、曇ったり晴れたりと定まらない秋の空に作者の気持ちが投影されていて、とても共感できます。自分の心をうまく句に託しましたね。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**静かなり桜月夜の水鏡**

中央中学校3年　秋山　醇之介

（評）満開の桜が月に照らされ、静かな水面に物の影がうつって見える。水面に自分の影もうつっている。現実離れした夢か幻のような一枚の絵を見るようで、とても写生の利いたよい句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**雪だるま形も記憶もきえてゆく**

中央中学校3年　安田　愛花

（評）年末に珍しく彦根にも雪が降りました。子どもたちは大喜び。あちらこちらで雪だるまを見ることができました。しかし二・三日後にはすっかり消えてしまった、そんな情景から生まれた一句なのではないかと思います。雪だるまを作っている時の楽しさと儚くとけてゆくさまをうまくまとめました。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**ソーダ水十五の夢の泡沫さ**

南中学校3年　内片　望

（評）難しい一句ですね。作者はどんな夢を抱いていたのかはわかりませんが、察することはできます。ソーダ水という季題をもって一句にしたことはすばらしい。俳人ですね。将来を楽しみにしています。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**あかとんぼゆうひをめざしとんでいる**

中央中学校3年　福居　美和

（評）細かいところまで観察していますね。俳句は写生にはじまり写生に終ると言います。

それほど写生ということ・景色や物事をありのままに写しとったような表現が大切になります。しっかりと物を見ていて、大変豊かな感性を持っている作者だと思います。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

佳作　新記録どこまで跳ぼうか雨蛙
南中学校3年　荒川　陽彩

佳作　ふゆやすみしもやけできてまじなえる
中央中学校3年　神村　沙衣

佳作　テレビつけいつもみている甲子園
鳥居本中学校1年　前山　琉人

佳作　えんがわでふうりんのねにふかれてる
中央中学校3年　矢田　若葉

佳作　秋めいた空をみながらランニング
鳥居本中学校3年　嶋内　はるひ

佳作　日の入りが早しと嘆く茅蜩（ひぐらし）や
西中学校3年　門野　稜平

佳作　さわやかな風を感じてこぐペダル
西中学校3年　塩田　奈由太

佳作　ひがんばなほのおのようにゆれている
南中学校1年　中川　柚乃

佳作　アキアカネいきようようと飛びまわる
南中学校1年　實松　奏汰

佳作　レンガ道カフェのテラスの秋桜
南中学校3年　洞田　珠宙

入選　部活後のきれいな夕やけごほうびか
稲枝中学校1年　藤野　優希

入選　初詣自分の願い神様に
中央中学校3年　米丸　優羽

入選　炎天下人生かけて走りきる
西中学校3年　村田　脩斗

入選　夕やけに赤くそまる彦根城
西中学校3年　石ヶ﨑　栞菜

入選　風に乗りただよい香る金木犀
西中学校3年　山口　蓮

入選　夕方の田んぼの上に赤とんぼ
南中学校1年　北村　慈子

入選　舞うようにひらひら落ちる紅葉の葉
南中学校1年　川﨑　尋斗

入選　冬の朝陽のぬくもりがしみわたる
南中学校1年　二宮　楓花

入選　木の実ふるリズムききつつかぜのなか
南中学校1年　前川　理桜

入選　紅葉狩り見渡す限り夕日色
南中学校1年　尾田　蒼海

入選　紅葉ちる夕暮れどきにみせられて
南中学校1年　森　善悠

入選　ころもがえこころいれかえスタートだ
東中学校1年　吉田　りの

入選　下校道散りゆく紅葉目を奪う
稲枝中学校3年　中村　真沙斗

【総評】

新型コロナウイルスは私たちの生活を一変させてしまいました。そして出口の見えない閉塞感を抱えたまま新しい年を迎えることになりました。

自由に好きなところに行き、好きな友だちに会う。自然や人に出会うその喜びや瞬間を俳句にする。今まであたり前に行われてきたことが奪われています。その様な不自由の中であってもたくさん応募いただいたことに喜びを感じております。

それぞれ一生懸命作られた作品を見て一番感心したのは、中学生の作品についてです。自分というものを持ち、洞察力にすぐれていることに、感心と驚きを感じました。

それはご指導される先生方によるものだとも思います。

俳句は、写生にはじまり写生に終わるといいます。景色や物事をありのままに写しとったような表現が大切だというわけです。

ますます精進してよい句を作ってくださいね。応援しています。

（彦根文芸協会　　野瀬　章子）